

## 第4学年 算 数

### 第4学年の学習到達目標

- (1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方についての理解を深め、小数及び分数についての加法及び減法の意味を理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。さらに、概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
- (2) 面積の単位と測定について理解し、図形の面積を求めることができるようにするとともに、角の大きさの単位と測定について理解できるようにする。
- (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について理解できるようにする。
- (4) 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり調べたりすることができるようにする。

### 第4学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	大きい数のしくみ	●億や兆の単位を知り、十進位取り記数法の理解を深める。 ●数を用いる能力を伸ばす。	○「億」、「兆」までの整数の表し方、読み方 ○十進位取り記数法と十進法の意味
	角の大きさ	●角の大きさの単位と測定の意味を理解する。 ●角の大きさを測定したり、かいたりでき	○回転による角の大きさの意味 ○角の単位「度」、1直角=90° の関係 ○分度器による角のはかり方、かき方
	わり算の筆算(1)	●(2, 3位数)÷(1位数)の計算の意味や仕方を考え、計算できるようになる。	○何十、何百を1位数でわるわり算 ○(2, 3位数)÷(1位数)のわり算と筆算
	垂直・平行と四角形	●直線の垂直や平行の関係、台形、平行四辺形、ひし形について理解し、図形の見方や感覚を豊かにする。	○直線の垂直、平行の概念とかき方 ○平行線を活用した角の大きさ ○台形、平行四辺形、ひし形の概念とかき
	折れ線グラフ	●目的に応じて資料を折れ線グラフを用いて表したり、その特徴や傾向を読み取ったりして、統計的な見方を伸ばす。	○折れ線グラフの読み方 ○折れ線グラフのかき方
	そろばん	●そろばんの仕組みについて理解を深め、整数や小数のたし算・ひき算ができる。	○そろばんを用いた整数や小数の表し方 ○そろばんを用いた整数や小数のたし算・ひき算
	小数のしくみ	●小数の意味や表し方を理解する。 ●小数のたし算・ひき算ができる。	○小数の位取りと構成 ○小数を10倍、1/10にしたときの数 ○小数のたし算・ひき算
	わり算の筆算(2)	●(2, 3位数)÷(2位数)、(3位数)÷(3位数)の計算の意味や仕方を考え、計算できるようになる。	○何十でわるわり算 ○(2, 3位数)÷(2位数)のわり算と筆算 ○(3位数)÷(3位数)のわり算と筆算
後期	整理のしかた	●2つの観点から資料を分類整理し、表にまとめることができる。 ●表から特徴を読み取ることができる。	○資料を落ちや重なりがないように分類整理 ○二次元表の表し方
	計算のきまり	●四則混合の式や( )を使った式、かけ算やわり算の計算の順序を理解し、正しく計算することができる。	○( )を用いた式の計算の順序 ○四則混合の式の計算の順序
	面積のはかり方と表し方	●面積の意味について理解し、長方形や正方形などの面積を求めることができる。	○面積の意味 ○面積の単位と相互関係 ○長方形、正方形の面積公式
	分数	●分数の意味や表し方を理解する。 ●分数は単位分数のいくつかで表す。 ●数の構成や大小関係を理解する。	○真分数、仮分数、帯分数の概念、構成 ○分数の相当関係と大小比較 ○同分母分数のたし算、ひき算
	変わり方調べ	●2つの数量の対応関係を表にできる。 ●表から、2つの数量の対応のきまりや変わり方を調べることができる。	○2つの数量の対応関係を表にしたり、□や○を用いて式に表したりする
	がい数の表し方	●概数の意味を理解し、見積もりを生活に生かす。 ●四捨五入の意味を理解し、求める。	○概数の意味 ○四捨五入の意味と方法 ○和、差、積、商を概数で見積もる
	小数のかけ算とわり算	●(小数)×(整数)、(小数)÷(整数)の意味を理解し、計算することができる。 ●余り、わり進みのあるわり算ができる。	○(小数)×(整数)の意味と計算のしかた ○(小数)÷(整数)の意味と計算のしかた ○余り、わり進みのあるわり算の計算
	直方体と立方体	●直方体や立方体の定義や名称、構成要素を知り、その数や位置関係を理解する。 ●展開図、見取り図をかくことができる。	○直方体、立方体の概念、特徴、性質 ○展開図、見取り図の意味とかき方 ○平面上や空間内の点の位置の表し方
	4年のふくしゅう	●既習した主な内容について、確実に理解し、的確に能率よく用いることができる。	○4学年の学習内容の総復習

## 評価の観点・方法

<p><b>(1) 評価の観点</b></p> <p><b>【算数への関心・意欲・態度】</b> 知識や技能の有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活に生かそうとする。</p> <p><b>【数学的な考え方】</b> 算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身につけ、事象について見通しを持ち、筋道を立てて考える。</p> <p><b>【数量や図形についての技能】</b> 整数や小数の計算が確実にでき、図形の面積を求めたり、図形を作図したり、数量の関係などを表したり調べたりする。</p> <p><b>【数量や図形についての知識・理解】</b> 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、小数や分数の意味と表し方、面積の意味、基本的な図形の意味及び数量の関係の表し方や調べ方を理解している。</p>	<p><b>(2) 評価の方法</b></p> <p>① 知識・理解・技能だけでなく、児童の学習意欲や思考力・判断力・表現力などの観点も大切にしていきます。</p> <p>② ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発表、課題への取り組み状況、ノートなど、様々な方法により多面的に評価します。</p> <p>③ 学習途中に現れる児童の思いや願いやその都度評価し、指導に生かします。</p> <p>④ 児童自らが、自分自身の学習の仕方や理解の程度などを、自己評価や相互評価したのもも参考にします。</p>
--	---

## 特色ある学習方法

<p><b>(1) 基礎・基本の定着</b></p> <p>① 前学年までの内容も継続して指導し、理解と定着を図るようにします。</p> <p>② 計算や測定などの基礎的スキルについては、その習熟や維持を図るため反復練習をします。</p> <p><b>(2) 算数的活動を積極的に取り入れる。</b> 数量や図形についての意味を理解し、論理的な思考力や直感力、問題解決能力を育てるために、生活との関連を考慮しながら、作業的・体験的活動ができる場面を設定するよう工夫します。また、ゲームなどの要素を取り入れ、楽しく練習ができるような場を設定していきます。</p> <p><b>(3) 学習形態の工夫</b> 一人一人の学習状況を把握し、きめ細かい指導をしたり、自分に合った課題を選択して学習に取り組んだりできるように、学習形態の工夫を図ります。</p>
---

## 使用教材等

○ 教科書「新しい算数 4年」(東京書籍)                      ○ 計算ドリル

## 留意事項

<p><b>(1) ノートについて</b> ノートは、自分が何を考え、どうやって解決に行き着いたのか記録する大切なものです。工夫したノート作りに取り組みます。</p> <p><b>(2) 家庭学習・用具の準備を大切に</b> 毎時間の復習は、確かな理解につながります。学習した内容の定着を図るため、計算ドリルやプリントなどの課題を出します。自分の間違いに気づき、その原因を明らかにした上で確実に直していくなど、間違いから学ぶ姿勢も大切です。また、ものさし、三角定規、分度器、コンパスなどの用具をきちんと用意し、必要なときはいつでも使えるようにしておくことが必要です。</p> <p><b>(3) 興味・関心を高めるために</b> 算数で学習したことが、生活の中で直面した問題の解決に生かされることにより、算数のよさを実感することができます。見積もりや割合など、日常の事象を数理的にとらえたり、身近な事柄の中に含まれる数・量・図形等の要素や数学的な考えに着目したりできるように、ご協力をお願いします。</p>
---